

感謝祭ウィーク 市場の注目は新型コロナの感染状況などへ

2020年11月23日(月)

26日木曜日は米国の感謝祭です。金曜日の米国市場はオープンしていますが、休暇を取るケースも多く、実質的な長期休場に。27日金曜日はブラックフライデー(感謝祭翌日の金曜日で、米国の年末セールのスタート日)ということで、セールに出かけている参加者も多そうです。

例年この時期のマーケットは米国勢の取引が低調になることもあり、比較的落ち着いたものとなるケースが多いです。ただ、今年は新型コロナウイルスの感染拡大第3波の流れが深刻化していることや、ワクチン開発の動きが強まっていることなどもあり、積極的な取引が行われる展開もありそうです。

新型コロナウイルスの感染拡大に関しては世界的にかなり深刻な状況となっています。米国では死者が25万人を超え、一日当たりの新規感染者数も13日の17.7万人を筆頭に18日も17万人超えを記録するなど、感染拡大が止まりません。ロックダウンを実施した4月の一日当たり新規感染者数のピークが4万人を超えず、7月の第2波でも8万人に届いていませんから、その倍以上の数字が記録されている直近の状況の厳しさがわかります。カリフォルニア州は19日にサンフランシスコ市など一部を除いた州全体を対象に夜間の外出禁止令を発令。11月21日から12月21日までの約一月が実施期間となります。感謝祭を前に夜間の人出が多くなりそうなどで規制をかけたといったところでは。

米CDC(疾病予防管理センター)も感謝祭での旅行を控えるように要請しています。米国では感謝祭の期間に友人などと集まって食事する習慣が見られ、カリフォルニア州同様に19日に夜間外出禁止令を出したオハイオ州にある、オハイオ州立大学による世論調査では、この期間に38%の人が10人以上の会食を行う予定であると示されました。

ただでさえこれから寒くなり新型でなくてもコロナにかかりやすい時期です。また、これまでの米国での市民の行動様式を見る限り、今回の夜間外出禁止令や自粛要請をうけてもそれなりの割合でパーティー・会食が行われる可能性が高そうです。また、金曜日のブラックフライデーでのセールで、大手チェーンストアに毎年人が殺到している件についても、例年ほどではないにしても多くの人出が見込まれるだけに、年末に向けてもう一段の感染のピークがありそう。市場の警戒感には当面継続しそうな流れです。

欧州でも同様に感染拡大の被害が深刻。英国やフランス、スペイン、イタリア、ドイツなどで春のような厳しいものではないにせよロックダウンが実施されていますが、依然として感染者数が高水準で推移しています。

こうした状況が今週も続くと、投資資金は円に集まりやすくなります。日本でも東京で連日新規感染者数が500人を超え、日本全体でも2000人を初めて超えるなど、状況が深刻化していますが、数字だけを見ると、17万人超の米国はもちろん、人口は日本の半分強なのに、一日当たりの感染者数が何度か10万人を超えているフランスなどに比べると、かなり少ないという印象を与える状況。

ただでさえリスク警戒の動きは円買いにつながりやすいだけに、もう一段の円高進行に要注意の週となりそうです。

一方で、新型コロナウイルス向けのワクチン開発も急ピッチで進んでおり、年内にも供給が開始される可能性があります。米FDA(食品医薬品局)による緊急使用許可が下りるなどの報道があると、一気に円売りが進む可能性もありますので、状況の変化に注意したいところです。

経済指標では、23日に発表される欧米主要各国のPMI速報値が注目を集めそうです。

23日は17時15分にフランスの製造業・非製造業PMI、17時半にドイツの製造業・非製造業PMI、18時にユーロ圏の製造業・非製造業PMI、18時半に英国の製造業・非製造業PMI、そして23時45分に米国の製造業・非製造業PMI(すべて11月速報値)が発表されます。

新型コロナウイルスの感染拡大や、ロックダウンの実施を受けて欧州では製造業、非製造業ともに悪化見込み。特にロックダウンの影響を受けやすい非製造業は、ドイツが前回の49.5から47.5へ、ユーロ圏全体の非製造業は46.9から44.1と落ち込みを示しています。ユーロ圏主要国同様にロックダウンを実施中の英国では非製造業が51.4から46.0と、景気の拡大・縮小判断の境目となる50を割り込む見通しとなりました。

欧州に比べると全国的なロックダウンが行われていない分、米国のPMIは製造業、非製造業ともに鈍化とはいえ落ち込み幅が小さく、非製造業も56.9から55.8と、節目の50を大きく上回る水準での維持が見込まれています。

予想前後の悪化であれば影響は限定的とみられますが、企業心理がどうなっているのかは読みにくいところもあり、予想を超えての落ち込みも十分に考えられるところ。予想以上に落ち込みが見られると、リスク警戒からの円買いが一層進む可能性がありますので要注意です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様自身の判断と責任によつてなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド